

仙台市立黒松小学校

1 2 学期制の利点を生かす教育課程の編成

本校の教育の重点の1つは、「学力保証」(基礎学力の育成と充実)である。この実現に向け、2 学期制によって生まれるゆとりを最大限に活用する試みを行った。

教育活動の見直しと改善を図ったのは、行事の調整、会議の効率化、保護者面談の設置、評価の充実、日課表の工夫等である。

学期が長いという特性・利点を生かすように教育課程全般にわたって工夫した。特に7・9・10月の単元配列を、夏季休業をはさんでも連続した学習となるよう配慮した。

秋休みの時期にかかる行事だけでなく、全ての行事をこの機会に見直し、精選・重点化した。

評価方法の改善、保護者との面談、学校自由参観日等を実施した。

家庭訪問の時期や内容を工夫し、児童の状況をより詳しく伝えられるようにした。

通信票の他、個人ごとの学習カードを作成し、単元終了後や学期ごとに配布した。

2 実践例

(1) 基礎学力習熟のための時間設定の工夫

基礎学力を「読み・書き・計算」と押さえ、学年それぞれの最低到達目標を設定した。その目標に迫るために、週3回の朝の打ち合わせをなくし毎朝8:30~8:45の時間を算数の「まず計算」や国語の「読み書き」の習熟の時間とした。算数の「まず計算」は、2週間続けて行い、やり方を覚えさせた。その結果は表の通りである。



(3年:国語の音読タイム)

ほとんどの児童が、計算の速度・正答率をアップさせている。現在も、自己ベストをめ

ざして意欲的に取り組んでいる。

「100ます計算」実施開始日と2週間後の比較*

学 年	1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年			
	内 容	実 施 日	内 容	実 施 日	内 容	実 施 日	内 容	実 施 日	内 容	実 施 日	内 容	実 施 日		
49ます計算	11/27	12/13	100ます計算	11/27	12/13									
~2分未満	0	8	0	1	0	5	1	16	2	20	0	0		
2~5分	36	75	17	45	51	77	74	87	60	88	0	10		
5~10分	62	39	70	42	34	4	30	8	46	3	6	57		
10~15分	21	2	16	7	2	0	8	0			18	19		
15分以上	7	2	3	3			2	0			64	1		
正答率	92.0	95.0	96.3	99.1	99.1	98.5	95.4	99.0	95.4	99.7	93.9	98.3		

(100ます計算の結果: 11月~12月)

実施にあたっては、学習指導部や教科部会で随時検討し、全職員と相談しながらよりよい改善策を模索し、全職員で教育課程の改善に取り組んできた。カリキュラムの自主管理も進んでいる。

(2) 行事の重点化

1 学期は、児童の学習状況把握と学習習慣や学び方を身につけさせる学期と位置づけ、従来行ってきた1 学期の行事(運動会や修学旅行等)のねらいを吟味した。それをもとに実施時期を2 学期に移動した。また昨年度まで11月に実施していた児童会行事(まつのみ祭り)を、児童の主体性を早い時期から育成していくことをねらって1 学期に移動した。

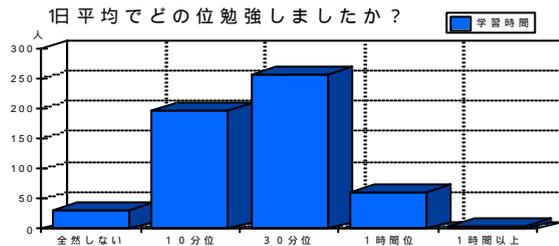
その結果1 学期には、じっくり学級作りや学習を進めることができた。しかし、9月から11月にかけて毎月大きな行事が続き、次年度これらをどのように調整していくかが課題となっている。

(3) 評価の報告

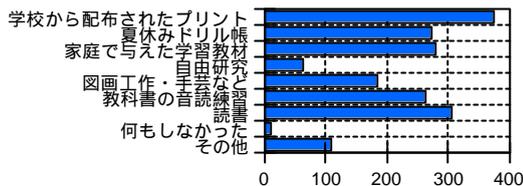
2 学期制になって、授業参観・懇談会が2 回に減ったので、個人面談2 回と学校自由参観日2 回を新設した。個人面談は、従来の家庭訪問の要素も入れ、6 月後半に1 家庭30 分程度の時間を取って実施した。4 月に実施した標準学力検査の結果や学習状況についてじっくりと話し合うことができた。

また、基礎・基本の確実な習得のためには、家庭との連携が不可欠である。夏休み終了後すぐに家庭学習調査を実施した。その結果は

下記の通りである。



何を勉強しましたか？ 複数回答



この結果を踏まえ、12月の個人面談では、保護者と「ます計算」の状況や冬休みの学習課題のポイントについて話し合った。

(4) 通信票の内容と学習カードの工夫

個々の子どもの学習状況が保護者に伝わるような項目の見直しや、到達状況が具体的に把握できるような改訂を行った。また、総合的な学習の時間の評価については、具体的にどんな力が身に付いたかを記述する欄を設けた。

氏名(○△◇)		学習のようす		1学期			2学期		
教科	おもなめあて	よくできた	できなかった	よくできた	できなかった	努力点	よくできた	できなかった	努力点
国語	国語に関心を持ち、通んで表現する。		○		○			○	
国	内容を考えて話したり聞いたりする。		○		○			○	
算	目的や構成を考えて文章を書く。		○		○			○	
語	文字や語句などについて正しく理解している。	○			○			○	
総合	(1学期) 仙台の三大祭りの一つである青森祭りテーマにして、その由来や概要等について本やコンピュータで調べ、多くの情報を収集して、まとめました。	(2学期) 課題をまとめるのに、コンピューターワープロ文章にデジタルカメラで撮った写真を取り込み加工したり、字の形を変えたりして読みやすい工夫をすることができました。							

算数については、3年以上「算数のあゆみ」を作成した。まず、各学年の算数部員が1学期と2学期のそれぞれの「単元名」「単元の目標」について洗い出し、それを拡大学習指導部会(学習指導部員・算数科部員・教務で構成)で検討し、3段階(A・B・C)の評価規準を作成した。学期末に通信票と一緒に配布した。

算数のあゆみ

【第1学期】

単元名	単元の目標	A	B	C
1. 分数のわり算	・分数×整数、分数÷整数の意味と計算のしかたが分かり計算できる。		○	
2. 分数のかけ算	・分数×分数のかけ算の意味と計算のしかたが分かり計算できる。	○		
3. 分数のわり算	・分数÷分数のわり算の意味と計算のしかたが分かり計算できる。		○	
4. 比と比の値	・2つの数量の関係を表すのに、比や比の値を用いることができる。 ・比を使って問題を解くことができる。	○		
5. 拡大図と縮図	・拡大図、縮図の意味や性質が分かり、拡大図や縮図をかきことができる。	○		
(児童の反省) グループ別になってからわかりやすくなった。人数が少ないので、聞きやすかった。 (保護者の声) グループ別学習について、本人にとってはとてもよかったですと感じています。少人数のおかげで先生の話をしっかり理解でき、本人のペースに合った進み具合でした。				保護者印

【算数のあゆみ】の見方
 ・単元ごとの段階評価になっています。
 ・A-「よくできた」B-「できた」C-「がんばろう」を表し、評価該当項目に○印をつけています。
 ・「児童の反省」には児童自身が、「保護者の声」の欄には保護者の方が記入して下さい。また、保護者印を忘れずに押してください。

(5) 保護者や地域への広報

2学期制実施等による学校の大きな変化によって保護者や地域が徒らに疑問や不安を抱かないように下記のようなことを行った。

保護者・地域向けに学校だよりや学校要覧を配布(2学期制のねらい、通信票の配布時期の変更、学校行事等の変更等)

毎月学校運営委員会に学校評議員が参加
 7月と12月の2回学校評議員会を開催
 学校自由参観は、日常の学校の公開という観点から地域の方々にも公開した。

3 まとめ

従来は学期末だった7月や12月の評定・事務整理等が少なくなった分、教師も児童もゆとりができた。この時期に個別指導を充実したり、個人面談で保護者と話し合ったり、教職員の研修を行うことができた。

体験的な学習の時間を多くとれるようになった。学期が長くなり、指導計画の自由度が増したことで下見や計画・準備がじっくりできるゆとりが生まれたためである。

保護者との面談や学習の様子を参観してもらう機会が増えた。観察・指導・評価を長期間で細やかにを行い、子供の様子をより詳しく保護者に伝えることができた。

これまで経験のない2学期制への取り組みをきっかけとして、教職員が自校の教育活動を柔軟な発想で見直すようになった。